

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	俚言とその地方性格
Author(s)	十河, 直樹
Citation	ニダバ , 12 : 1 - 12
Issue Date	1983-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00047142">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00047142</a>
Right	
Relation	



## 俚言とその地方性格

十 河 直 樹

## 1 はじめに——動機

(1) 地方へ旅行すると、駅の売店や旅館などで、方言を掲載した絵葉書や手ぬぐいなどを見かける。少し凝った物になると、方言番付表などを作って横綱から前頭、はては行司に至る東西の代表的な方言(俚言<sup>1</sup>)を記載している。

(2) こういった種類のもは、方言の内でも俚言が優勢で、訛語<sup>2</sup>は前頭のあたりに位置している。すなわち、地元民も俚言がその地方を代表できる奇妙な方言と思うから、横綱や大関のあたりにランクさせているのであろう。

(3) もともと、俚言は「その地方でしか用いない独特の言語」であるから、そういった見方で、方言手拭とか方言集を観ていると、その地方の性格が分かる様な気がした。

すなわち、青森県の代表俚言の中には共通の要素があるのではなかろうか。発音や音韻では岩手県や秋田県などと似ていても、やはり青森県人独特の物の見方、考え方が内包されているのではなかろうか。その共通要素とはどんなものか。なぜその面に傾注しているのか。

俚言を解析することによって、その地方人の性格を知ることができる。そう思い、調査・研究に携わった。

## 2 調査にあたって

## (1) 調査方法

① 著者(十河)が、これまで日本各地を旅行・調査した場合に入手した、方言手拭・葉書・方言集(ただし、過去10年間の内に発行されたもの)の中より、十語程ピックアップした。

② 調査基準は、語形・語義を中心に解析を進めたため、発音・アクセントについては詳細には考えていない。

(2) 調査対象地域<sup>3</sup>は、都合7県(地方)で、いわゆる行政区画にはそっていない。使用した手拭・絵葉書・及び方言集のタイトルをそのまま使用した。

(3) 掲上用語の確認の為、『全国方言辞典』東條操編 昭和39年10月30日 23版発行のものを参考にした。

### 3 用語分析

- (1) 分析基準は、音形・語形・品詞・要素(性情・感覚・事物・動植物など)の順で分析した。  
 (2) 表中、(古)とあるのは古語、(多)は頻度の多用、(廃)は現在では廃語となった意味を表わす。

#### 1 津軽方言

表1

	品連二 詞語的 -ji(:)	性人 情物	物 量	感 覚	生 き も の
① アスマシー(気持ちよい)	形 ○ ○	○			
② エヘル(すねる)	動	○			
③ イパダダ(古)(おかしい)	形	○			
④ アダコ(子守り娘)	名 ○		○		
⑤ メラシ(多)(娘)	名 ○		○		
⑥ ダンブリ(とんぼ)	名				○
⑦ チャカマシー(ややこしい)	形 ○ ○	○			
⑧ マイネー(多)(駄目だ)	副	○			
⑨ ケッパル(多)(がんばる)	動	○			
⑩ ホタゴ(へそくり)	名 ○			○	
	4 3	6	2	1	1

#### 2 秋田方言

表2

	品連二 詞語的 -ri -ko	性人 情物	物 量	感 覚	生 き も の
① サラグ(やめる, 見合わせる)	動 ○				
② トドコ(廃)(蚕)	名 ○ ○				○
③ ボッコ(赤とんぼ)	名 ○				○
④ ムズケル(すねる)	動	○			
⑤ ムツタリ(常に)	副 ○				
⑥ オモクラシヒト(厳格な人)	名	○ ○			
⑦ タロンペ(古)(つらら)	名				
⑧ ジッパリ(沢山(に), 十分(に))	副 ○			○	
⑨ ノサバリ(かわいがられる)	名 ○	○			
⑩ バッチコ(末の子)	名 ○		○		
	2 3 3	3	2	1	2

3 但馬方言

表3

	品連二次 詞語的 -n	性人物感 情物量覚 生きもの
① ボッチャ(引き分け)	名	
② ゲッター(びり)	名	
③ オゼエーモン(賢い子)	名 ○	○ ○
④ ダラズ(阿呆)	名	○
⑤ モシャーゲン(共同出資)	名 ○	
⑥ シャータレ(おしゃれ)	名	○
⑦ シコテン(多)(恰好)	名 ○	
⑧ ノシツムグ(待ちこがれる)	動	
⑨ アタク(あてこする)	動	○
⑩ ジョーテンビ(自由きまま)	名 ○	○
	1 3	5 1

4 出雲方言

表4

	品連二次 詞語的 -ji era-	性人物感 情物量覚 生きもの
① バンジマシテ(こんばんわ)	名 ○	
② イトシナゲ(かわいそう)	名 ○	○
③ ダンダン(ありがとう)	名	
④ エラシジ(古)(いじらしい)	形 ○	○
⑤ チョンボシ(少し)	形 ○	○
⑥ ローチキ(沢山)	名	○
⑦ オンボラ(ほのぼの)	副	
⑧ エラクラシ(うるさい)	形 ○ ○	○
⑨ ベツタリ(常に)	名	
⑩ ジジラニ(古)(たえまなく)	動	
	2 2 2	3 2

## 5 岡山方言

表5

	品 連 二 詞 語 的	次 -ru	性 人 物 感 生 情 物 量 覚 きのもの
① ニガル(キリキリ痛む)	動	○	○
② ツガリガネー(古)(つまらない)	○	○	○
③ ノシラメル(しらない顔をする)	動	○	○
④ ニスカカラン(容易ではない)	名	○	
⑤ ウズナイー(多)(なんとも言いようのない)	形		○
⑥ エット(沢山)	名		○
⑦ ヨケー(多)(沢山)	名		○
⑧ ゴジャ(多)(無茶)	名		
⑨ ハシル(傷口などがピリピリ痛む)	動	○	○
⑩ ヨダツ(多)(さしさわりのある)	動		
	1	2	3
			3 2 2

## 6 鹿児島方言

表6

	品 連 二 詞 語 的	次 -i	性 人 物 感 生 情 物 量 覚 きのもの
① ゲンネ(はずかしい)	形		○
② ズンバイ(たくさん)	名	○	○
③ ムゼカ(かわいい)	形		○
④ ズルッ(全部)	名		○
⑤ ヨカニセ(多)(美男子)	名	○	○
⑥ オゴジョ(女)	名	○	○
⑦ チングワラッ(古)(めちゃくちゃ)	名		○
⑧ グレタ(疲れた)	動		
⑨ グラシー(多)(かわいそう)	名		○
⑩ ガツツイ(丁度)	副	○	
	2	2	4 2 2

	品詞	連語	二次的	三次的	性情	人物	物量	感覚	生きもの
① チューガナビラ(こんにちわ)		○	○						
② イミソーレ(お入りください)		○							
③ シカン(多)(嫌い)	形				○				
④ マギー(大きい)	形		○				○		
⑤ グマー(小さい)	形						○		
⑥ チューラーカギー(美人)	名		○	○		○			
⑦ ミームク(花婿)	名		○		○	○			
⑧ ミーユミ(花嫁)	名		○		○	○			
⑨ ニングル(多)(恋人)	名		○			○			
⑩ サト(古)(彼氏)	名					○			
		2	5	2	2	1	5	2	

4 表示から

- (1) 分類項目九項目(音形・文法(品詞)・語形・性情・人物・物量・感覚・生きもの)で、語形の面で、歴然と造語であるものについては、二次的及び三次的な点として分析した。
- (2) 次に、7地方70語について、品詞別、及び要素別の点からその地方の特徴性を探ってみたい。

表8

		1	2	3	4	5	6	7	
名	詞	4	6	8	5	4	6	5	38
形	容 詞	3			3	1	2	3	12
動	詞	2	2	2	1	4	1		12
副	詞	1	2		1		1		5
そ	れ					1		2	3
	以								
	外								
									70

特徴的な地方と品詞

- (1) 名詞：但馬 (3) 形容詞：津軽，出雲，沖縄  
 (2) 動詞：岡山 (4) 副詞：秋田

① 品詞別では、名詞が $38/70(57\%)$ ・動詞 $12/70(17\%)$ ・形容詞 $12/70(17\%)$ ・副詞 $3/70(3\%)$ で、ものに対する名称、ものの動いている様子に対して、あるいは、そうしたものに対する形容称が目だつ。また、名詞は他の品詞の2～3倍に値する。

② 地域の点で、但馬地方は特徴表現の高い地方と言える。

次に、品詞と要素に関係した分析を試みてみたい。

## 5 品詞と要素と地域との関係(細分)

### (1) 品詞から

#### 名詞<人物>

表9

	1	2	3	4	5	6	7	男性のみ	子供	若年
1-④ アダコ(子守り娘)	○								○	○
1-⑤ メラシ(娘)	○								○	○
2-⑥ オモクラヒト(厳格な人)		○						○		
2-⑩ パッチコ(末の子)		○							○	
3-③ オゼエーモン(賢い子)			○					○	○	
6-⑤ ヨカニセ(美男子)						○		○		○
6-⑥ オゴジョ(女性)						○				
7-⑥ チューラーガギー(美人)							○			○
7-⑦ ミームク(花婿)							○	○		○
7-⑧ ミーユミ(花嫁)							○			○
7-⑨ ニングル(恋人)							○			○
7-⑩ サト(彼氏)							○	○		○
	2	2	1			2	5	5	4	8

#### <虫類>

表10

	1	2	3	4	5	6	7	飼育する
1-⑥ ダンプリ(とんぼ)	○							
2-② トドコ(蚕)		○						○
2-③ ボッコ(赤とんぼ)		○						
	1	2						1

《人物関係称》

表11

	1 2 3 4 5 6 7							容 愛 思 性			
								姿 情 考 格			
2-⑨ ノサバリ(かわいがられる)		○							○		
3-④ ダラズ(阿呆)				○						○	
3-⑥ シャータレ(おしゃれ)				○				○			
3-⑦ シコテン(恰好)				○				○			
3-⑩ ジョーテンビ(自由なさま)				○							○
4-② イトシナゲ(かわいそう)					○				○		
		1	4	1				2	2	1	1

《それ以外》

表12

	1 2 3 4 5 6 7							河 娛 多 状 金 難					
								水 楽 少 況 銭 易					
2-⑦ タロンベ(つらら)		○						○					
3-① ボッチャ(引き分け)				○					○				
3-② ゲッター(びり)				○					○				
3-⑤ モシャーゲン(共同出資)				○								○	
4-⑥ ローチキ(沢山)					○					○			
4-⑨ ベッター(常に)					○						○		
5-④ ニスカカラン(容易でない)						○							○
5-⑥ エット(沢山)						○				○			
5-⑦ ヨケー(沢山)						○				○			
5-⑧ ゴジャ(無茶)						○					○		
6-④ ズルッ(全部)							○			○			
6-⑦ チングワラッ(めちゃくちゃ)							○				○		
6-⑨ グラシー(かわいそう)							○				○		
1-⑩ ホダコ(へそくり)	○											○	
	1	1	3	1	4	3		1	2	4	4	2	1



<あいさつ>

表13

	1	2	3	4	5	6	7	感 謝	挨 拶	案 内
	4-③ ダンダン(ありがとう)				○				○	
7-① チューガナピラ(こんにちわ)							○		○	
7-② イミソーレ(お入りください)							○			○
				1			2	1	1	1

動 詞

表14

	1	2	3	4	5	6	7	性 情	感 覚	行 動
	1-② エヘル(すねる)	○							○	
1-⑨ ケッパル(がんばる)	○							○		
2-① サラグ(やめる)		○								○
2-④ ムズケル(すねる)		○						○		
3-⑧ ノシグム(待ちこがれる)			○							○
3-⑨ アタク(あてこする)			○					○		
4-⑩ ジジラニ(たえまなく)				○						○
5-① ニガル(キリキリ痛む)					○				○	
5-③ ノシラメル(しらん顔をする)					○			○		
5-⑨ ハシル(傷口の痛む)					○				○	
5-⑩ ヨダツ(さしさわりのある)					○			○		
6-⑧ ダレタ(疲れた)							○		○	
	2	2	2	1	4		1	6	3	3

形容詞

表15

	1 2 3 4 5 6 7							愛物行性社				
								情	量	動	情	会
1-① アスマシー(気持ちのよい)	○											○
1-③ イパダダ(おかしい)	○											○
1-⑦ チャカマシー(ややこしい)	○											○
4-④ エラシジ(いじらしい)				○								○
4-⑤ チョンボシ(少し)				○					○			
4-⑧ エラクラシ(うるさい)				○								○
5-⑤ ウズナイー(すばらしい)					○							○
6-① ゲンネ(はずかしい)						○						○
6-③ ムゼカ(かわいい)						○		○				
7-③ シカン(嫌い)							○	○				
7-④ マギー(大きい)							○		○			
7-⑤ グマー(小さい)							○		○			
	3			3	1	2	3	2	3		6	1

副詞

表16

	1 2 3 4 5 6 7							多状支		
								少	況	障
1-⑧ マイネー(駄目だ)	○									○
2-⑤ ムツタリ(常に)		○							○	
2-⑧ ジッパリ(たくさん, 十分に)		○						○		
4-⑦ オンボラ(ほのぼの)				○					○	
6-⑩ ガッツイ(丁度よく)						○		○		
	1	2		1		1		2	2	1

それ以外

表17

	1	2	3	4	5	6	7	判 断
5-② ツガリガネー(つまらない)					○			○
					1			1

(2) 要素から

表18

	1	2	3	4	5	6	7	
	津 軽	秋 田	但 馬	出 雲	岡 山	鹿 児 島	沖 縄	
性 情	6	3	5	3	3	4	1	25
人 物	2	2	1			2	5	12
物 量	1	1		2	2	2	2	10
感 覚					2			2
生きもの	1	2						3
	10	8	6	5	7	8	8	52/70

## 6 む す び

品詞面から

(1) 表8のごとく名詞が圧倒的に多く38/70(約57%)である。この内訳は、

- ① 人物称12称で、沖縄地方では若年に対する呼名が特徴である。
- ② 人物関係称では、但馬地方の4称で、容姿に対する2称が興味をひく。
- ③ 虫類称3称のうち、2称までが秋田地方方言で、蚕に対する呼名が特徴。
- ④ あいさつ称では3称のうち、2称が鹿児島方言中にあり、挨拶、案内称である。
- ⑤ それ以外の名称では、岡山方言の4称のうち2称が物の多少に対して、但馬方言の3称のうち2称が娯楽称にある。

(2) 動詞に注目すると12/70(約17%)で、その内訳は、(表14)

- ① 岡山方言の4称が特徴的で、性情2称、感覚2称にある。(このことは感覚(五感)に敏感であるといえる。)
- ② また、津軽、秋田、但馬方言が、西日本より勝っていることも一つの特徴点である。

(3) 形容詞の面から、 $12/70$ (約17%)で、動詞の比率と同じであるが、ここでの場合は、津軽方言の2称、出雲方言3称、鹿児島方言の3称と、日本の南北と裏日本(山陰)に片寄っていることが特徴。また、津軽方言の場合は、3称ともが性情に対する呼名。鹿児島方言の場合は物量に2称、愛情(性情)に1称あるのも見のがせない。(表15)

(4) 副詞は、 $5/70$ (約6%)で、(表16)

① 秋田方言の2称で、状況称に対し1称。物の多少に1称である。

② また、鹿児島・岡山・但馬方言に対象となる方言のないのにも注目したい。

要素面から (表18)

(1) 7地方70語のうち、性情に対する呼名 $25/70$ (約35%)で、津軽方言の6称、但馬方言の5称、鹿児島方言の4称が目につく。

(2) 人物に対する呼名は $12/70$ (約17%)で、沖縄方言の5称が注目をひく。人の飲びに対する点に民衆が注目しているのが分かる。

(3) 物量の呼名は $10/70$ (約14%)で、西日本にやや注目できる。

(4) 感覚の呼名は、 $2/70$ (約3%)で岡山方言に独特。

(5) 生きものに対する呼名 $3/70$ (約4%)は、津軽・秋田に寄っており、東北地方の自然に対する見方の強い点が知れる。

(6) それ以外18称(約27%)も分析の価値は高い。

分析結果

(1) 津軽地方は、性情に対する見方。形容詞3称に注目したい。(表15・18)

(2) 秋田地方は、名詞(虫類称)2称で、雪国であり、生物の生さまに対する表現に注目している。(表10)

(3) 但馬地方は、名詞4称、性情5称で、容姿と人の内面思考表現にするどい。(表11・18)

(4) 出雲地方は、形容詞3称、性情2称で、美的感覚に重点をおいているといえそうである。(表15)

(5) 岡山地方は、名詞(それ以外も含む)4称、感覚2称などあり、欲望に関係した呼名が高い。(表12・18)

(6) 鹿児島地方は、名詞(挨拶も含む)2称、性情4称あって、人情の厚さが分かる。(表13・18)

(7) 沖縄地方は、名詞(人物称)5称で、明朗な性格が浮き出ている。(表9・18)

## 注

- 1 俚言(りげん)=限られた地域(地方の場合もある)で用いる言語の一分野で、主に単語、連語を指す。いわゆる標準語の単語では代用がきかず、独特の音韻とニュアンス、語義を含有し、その土地の人が用いることによって一層の響きとさえがある。

たとえば、東北地方だとシバレル *fibareru* , ケッパル *kepparu* , 土佐地方のイゴッソ *igosso* などは、その音の響きによって生きた俚言を代表した言語である。

- 2 訛語(かご)=いわゆる訛りことばであって、連母音の場合には必ずその中間音(融合音とも)で発音するとか、二つの母音のうち、語幹の末尾子音に寄せた音、または語尾の接頭音(に寄った音)を発するなど、その地方、その単語によって変化はあるものの、通俗の発音をもって用いない語。
- 3 調査対象地域(ちょうさいししょうちいき)=この論文に対象した地域で、調査資料を一定とするため、市販している「方言手拭」「方言のれん」の二様。一都府県に多数のそういったものがある場合は、その都市の行政中心地域名(たとえば、広島県であれば、「広島の方言」と掲載してあるもの)を採用した。

また、方言集、方言絵葉書、方言手拭、方言のれんと複数ある場合は、方言のれんを採用した。その理由は、ここにあげた、対象地域7地方すべてに存在し、入手できたからである。